

—みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜—

横浜みどりアップ計画の評価・提案

骨子案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2020 年度報告書

横浜みどりアップ計画市民推進会議

2021 年 ○月

目 次

1	はじめに	1
2	横浜みどリアップ計画と市民推進会議	2
	(1) 横浜みどリアップ計画	
	(2) 横浜みどリアップ計画市民推進会議	
3	市民推進会議 2020 年度の活動実績	5
	(1) 2020 年度の活動の概要	
	(2) 活動の詳細内容	
	①市民推進会議（全体会議）	
	②施策別専門部会	
	③広報・見える化部会	
	④調査部会（現地調査）	
4	施策ごとの評価・提案	14
	◆計画の体系	
	◆各計画の柱のハイライト	
	◆評価・提案の概要	
	(1) 計画の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	19
	施策 1 樹林地の確実な保全の推進	
	施策 2 良好な森を育成する取組の推進	
	施策 3 森と市民とをつなげる取組の推進	
	(2) 計画の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる	28
	施策 1 農に親しむ取組の推進	
	施策 2 地産地消の推進	
	(3) 計画の柱 3 市民が実感できる緑や花をつくる	37
	施策 1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進	
	施策 2 緑や花に親しむ取組の推進	
	(4) 効果的な広報の展開	45
	市民の理解を広げる広報の展開	
5	市民推進会議委員名簿	50
6	市民推進会議委員からのコメント	53
7	市民推進会議広報誌「Yokohama みどリアップ Action」(2020 年度発行分) ...	54

4 施策ごとの評価・提案

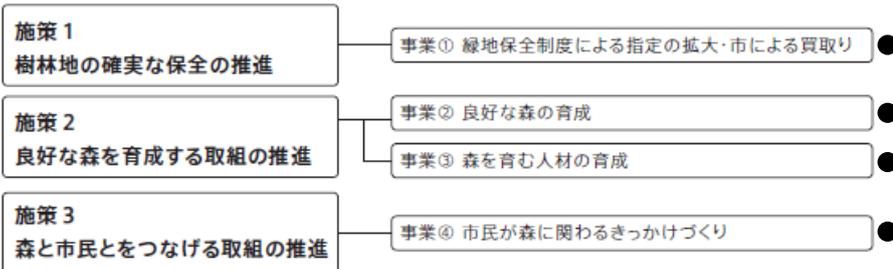
市民推進会議では、みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む（「森を育む）」、「市民が身近に農を感じる場をつくる（「農を感じる）」、「市民が実感できる緑や花をつくる（「緑をつくる）」の施策と、みどりアップ計画を市民の皆さまに周知するための「広報・PR」について、現地調査で市民や活動団体などからいただいた意見等を踏まえて、評価・提案を行いました。

なお、みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた用途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さまが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・提案を行いました。

◆計画の体系

●：横浜みどり税を充当している事業・取組

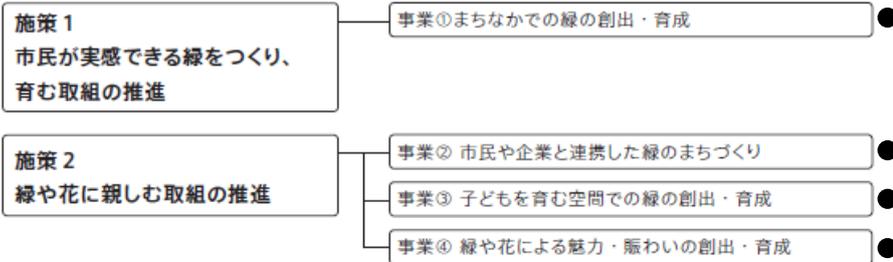
計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む



計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる



計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる



効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

◆各計画の柱のハイライト

2020年度の実施状況について、これまでの実施状況とあわせて振り返ります。

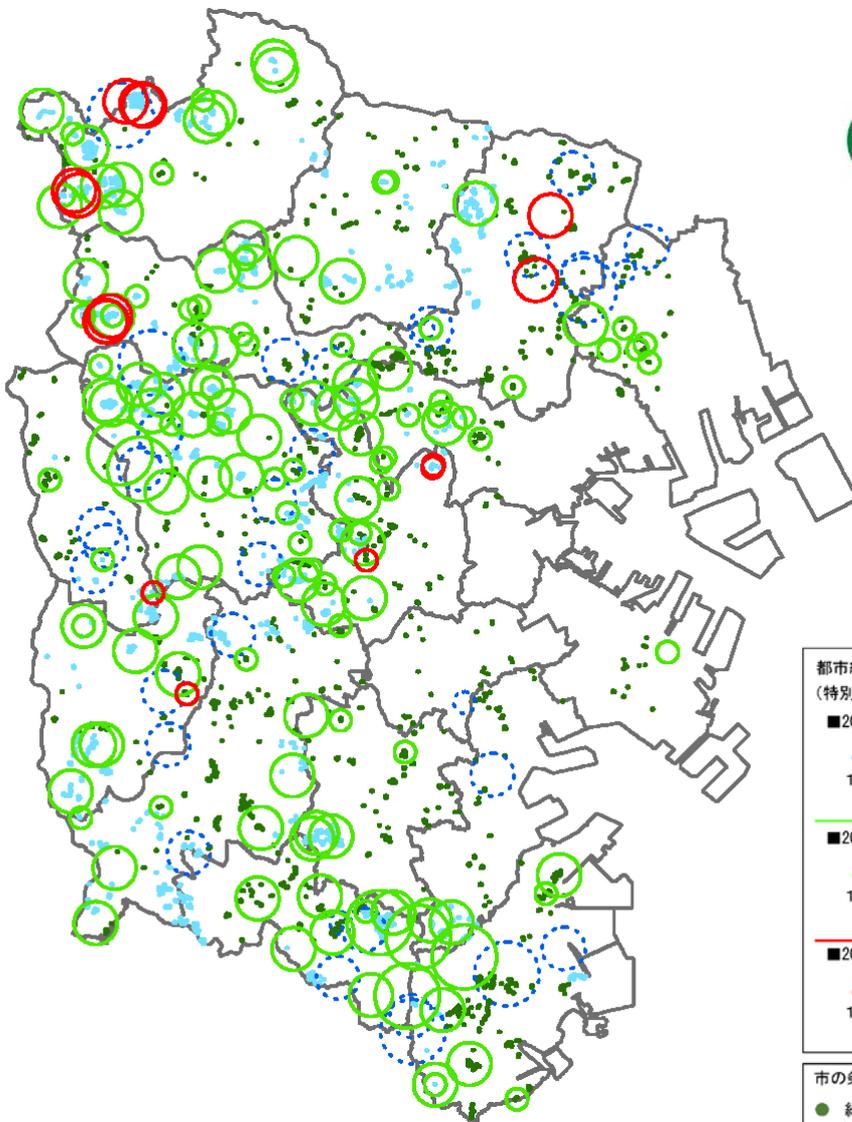


計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

緑地保全制度による指定の拡大が進んでいます

特別緑地保全地区などの緑地保全制度による指定は、緑のネットワークの核となるまとまりのある樹林地を中心に土地所有者へ働きかけを行い、2009(H21)～2019(R1)年度の11年間で約952.8ha、2020年度は28.9ha指定されました。

<緑地保全制度による指定の状況>



<凡例>

都市緑地法、首都圏近郊緑地保全法に基づく指定地区 (特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区)			
■2008年度以前指定地区			
1 ha	1 ha以上 10ha未満	10ha以上	
■2009～2019年度指定地区			
1 ha	1 ha以上 10ha未満	10ha以上	みどりアップ 期間中の指定
■2020年度指定地区			
1 ha	1 ha以上 10ha未満	10ha以上	本報告書で 評価対象と なる実績
市の条例に基づく指定地区			
● 緑地保存地区 (市街化区域の身近な樹林地を保全する制度)			
● 源流の森保存地区 (市街化調整区域の良好な樹林地を保全する制度)			



計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

農園の開設が進んでいます

野菜の収穫や果実のもぎとりなどを気軽に体験できる収穫体験農園、区画割りされた農園で本格的な農作業が出来る認定市民菜園や農園付公園など、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設が進んでいます。



<農園の開設状況>

(2009(H21)年度からの12か年)

※()内は2020年度新規開設分



令和3年3月末現在



計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

緑のまちづくりが進んでいます

市内各地で様々な緑をつくる自主的な活動が行われ、2009(H21)～2019(R1)年度の11年間で市内51地区において、魅力ある緑のまちづくりが進んでおり、2020年度は新たに4地区で緑化の取組が進みました。



<地域緑のまちづくり実施地区一覧>

地域緑のまちづくり実施地区一覧



六浦台地区（金沢区）

※横浜みどりアップ計画の詳細な実績については、「2020(令和2)年度 実績報告書」をご覧ください。

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/midori2020.html

URL 更新

◆評価・提案の概要

「計画の柱1:市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、…

「計画の柱2:市民が身近に農を感じる場をつくる」については、水田保全奨励など主要な取組について、概ね目標を達成していることを評価します。コロナ禍で外出自粛や在宅ワークが増えた結果、農業体験やガーデニング、家庭菜園などのニーズが高まってきています。様々なニーズに合わせた農園を通じ、市民が農にふれあう場が増えていくことを期待します。

地産地消については、Instagramを活用した情報発信や、自宅で料理を楽しんでもらえるレシピ動画を作成するなど、新しい生活様式に沿った取組にも積極的に取り組んでいることを評価します。また、直売所の整備・拡充支援においては、自動販売機の設置など、市民が安心して野菜を購入できる機会の創出に繋がっていることを評価します。市民・企業等と連携した地産地消の取組等、多くの方々が市内産農畜産物を手にすることができる機会が増えることを期待します。

「計画の柱3:市民が実感できる緑や花をつくる」については、…

「効果的な広報の展開」については、…

(2) 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

施策1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

農地は良好な農景観の形成や生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養機能など多様な機能を有しており、横浜に残る農地や農業がつくりだす「農」の景観は多様です。農業専用地区に代表される、集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家や法人などにより農地を維持する取組を支援します。

●実績

項目	5か年の 目標	2020年度		
		目標	実績	
取組(1) 水田の保全				
水田保全面積	125ha	125ha	113.3ha	
水源・水路の確保	10か所	2か所	3か所	
取組(2) 特定農業用施設保全契約の締結				
特定農業用施設保全契約の締結	制度運用	制度運用	契約 27件	
取組(3) 農景観を良好に維持する活動の支援				
まとまりのある農地を 良好に維持する団体 の活動への支援	集団農地維持面積	730ha	690ha	643.9ha
	農地縁辺部への植栽	55件	11件	15件
	井戸の改修	5地区	1地区	4地区
	土砂流出防止対策	15件	3件	5件
周辺環境に配慮した活 動への支援	牧草等による環境対策	20ha	4ha	4.36ha
	たい肥化設備等の支援	25件	5件	3件
取組(4) 多様な主体による農地の利用促進				
遊休農地の復元支援	1.5ha	0.3ha	0.28ha	



保全された水田(戸塚区舞岡町)



整備された水路(泉区下飯田町)



土砂流出防止対策を実施した農地
(都筑区東方町)



まとまりのある農地への景観植物の植栽
(旭区 都岡地区恵みの里)



●事業概要(計画書から抜粋)

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を市内各地で進めます。

また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里を中心に、市民が農とふれあう機会の提供や、農家への援農活動を支援します。

●実績

項目	5か年の 目標	2020年度	
		目標	実績
取組(1) 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設			
様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	22.8ha	3.5ha	3.98ha
うち 収穫体験農園の開設支援	(7.5ha)	(1.5ha)	(2.87ha)
うち 市民農園の開設支援(栽培収穫体験ファーム・環境学習農園・認定市民菜園)	(10ha)	(2.0ha)	(1.11ha)
うち 農園付公園の整備	(5.3ha)	(0.0ha)	(0.0ha) (着手済 4.4ha)
取組(2) 市民が農を楽しみ支援する取組の推進			
横浜ふるさと村、恵みの里等で農体験教室などの実施	450回	90回	50回
市民農業大学講座の開催(1年次の講座回数)	100回	20回	0回
家族で学ぶ農体験講座の開催	30回	6回	6回



開設支援した収穫体験農園
(保土ヶ谷区川島町)



開設支援した認定市民農園
(青葉区新石川)



恵みの里の農体験教室
(緑区新治町)



家族で学ぶ農体験講座
(保土ヶ谷区 環境活動支援センター)

市担当者からのコメント(環境創造局農政推進課・みどりアップ推進課・環境活動支援センター)

- 水田保全に関する事業では、保全期間10年が満了した土地所有者に更新手続きをお願いしていますが、高齢化が進み、10年後の耕作状況まで見通せないと更新を辞退される方が増えていて、目標の達成に困難を感じています。一方、水稻を作付していながら申し出いただいていない土地所有者も少数ながらいらっしゃるため、個別に事業の趣旨を説明するなど粘り強く働きかけ、新規に1.2haを保全することができました。
- 市民農園の事業では、小中学校の児童が農家の指導により農作業を体験できる環境学習農園において、コロナ対策による学校の休校措置やイベントの人数制限対応などにより、園主から「児童への指導を例年通りに実施することができず苦労している」などの意見や相談が数多く寄せられました。コロナという未曾有の事態の中での対応に、農家の方とともに悩みました。
- コロナ禍において、密にならずに農とのふれあいを楽しむことができる場として、農園利用についての問い合わせが増えていきます。市民の皆様のニーズに応えられるよう、引き続き、農園付公園の開設に向けて整備を進めていきます。
- ふるさと村や恵みの里の事業では、市民の皆様に農体験を楽しんでいただくため、農家の方々が熱心に準備を進めましたが、残念ながらコロナの影響で約60件のイベントを中止することになりました。それでも、農家の方の相談に乗り、いっしょに感染症対策を工夫しながら、2020年の夏以降は多くのイベントを企画し開催することができました。
- 恵みの里が実施する収穫体験などのイベントに対して、例年を大きく上回る申し込みがあったことや、市民農園の利用に関する問合せの増加など、コロナ禍の生活様式の変化に伴い、横浜の農業への関心や農体験のニーズが高まっていることを実感しています。

◆施策1についての評価・提案

- 水田保全の取組については、市内の水田面積の約9割が保全されていることは評価できます。水田が末永く維持管理されていくことにより、今後も良好な農景観が保全されることを期待します。
- 農景観を良好に維持する活動の支援については、農地縁辺部への植栽、土砂流出防止対策等、順調に進んでいることを評価します。近年、予想を上回る規模の大雨が多く発生しているため、土砂流出対策については継続して対策を実施していく必要があります。
- 遊休農地の復元支援は、今後も継続した支援を行うことが大切です。この事業をきっかけとして、営農意欲のある担い手に農地が利用され、遊休農地が少しでも減少することを期待します。
- 市民ニーズに合わせた農園について、認定市民菜園等の市民農園の開設支援、農園付公園の開設は目標値を下回ったものの、収穫体験農園の開設支援が着実に増え、全体として目標を上回ったことを評価します。コロナ禍で外出自粛や在宅ワークが増えた結果、農業体験やガーデニング、家庭菜園などのニーズが高まっています。このような状況からも、特に都心部エリアの住民からの農とふれあう場に対するニーズも高まっていることが考えられます。市民が個々人で農にふれあうことも大事ですが、地域の団体などが農を通して交流を図ることも大事です。様々なニーズに合わせた農園を通じ、市民が農にふれあう場が増えていくことを期待します。
- 市民が農を楽しみ支援する取組については、コロナ対策で外出等の自粛が求められる中、人数を制限しての開催など工夫し実施したことを評価します。市民農業大学講座も今年度の経験をもとに、次年度から工夫をして実施されることを期待します。
- 「恵みの里」について、このような時期に新しい地区で立ち上げるのは大変なことだったと思いますが、北八朔地区が新たに加わったことを大きく評価します。



施策2 地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

●事業概要(計画書から抜粋)

身近に市内産農畜産物や加工品を買える場や機会があることへの市民ニーズは高く、地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の取組は、身近に農を感じ、横浜の農への理解を深めるきっかけにもなります。

そこで、「横浜農場[※]の展開」による地産地消を推進するため、地域でとれた農畜産物などを販売する直売所等の整備・運営支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなどの取組を進めます。あわせて、地産地消に関わる情報の発信など、PR活動を推進します。

※横浜農場：食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、横浜らしい農業全体を農場と見立てた言葉

●実績

項目	5か年の 目標	2020年度	
		目標	実績
取組(1) 地産地消にふれる機会の拡大			
直売所・青空市等の支援	285件	57件	41件 (直売所・加工所:18件、 青空市・マルシェ等:23件)
緑化用苗木の配布	125,000本	25,000本	25,000本
情報誌などの発行	30回	6回	6回



野菜の自動販売機(港北区)



戸塚区地産地消 PR・直売コーナー(戸塚区)



緑化用苗木の配布(中区)



はまふうどナビ第56号

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

●事業概要(計画書から抜粋)

市内産農畜産物を食材として活用し、加工販売したいと考える企業や、横浜の農業の魅力伝える活動を行う野菜ソムリエや料理人などが増え、市民や企業、学校など農業関係者以外の主体が地産地消の取組を実施する活動が広がっています。この動きをさらに拡大するため、市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図り、「農のプラットフォーム」を充実するとともに、農と市民・企業等が連携した「横浜農場の展開」を推進します。

●実績

項目	5か年の 目標	2020年度	
		目標	実績
取組(1) 地産地消を広げる人材の育成			
はまふうどコンシェルジュの活動支援等	150件	30件	27件
地産地消ネットワーク交流会の開催	5回	1回	1回
取組(2) 市民や企業等との連携			
市民や企業等との連携	50件	10件	15件
ビジネス創出支援	16件	4件	3件
学校給食での市内産農産物の一斉供給	推進	推進	推進
料理コンクールの開催	5回	1回	1回



はまふうどコンシェルジュ活動支援
(マルシェの開催)



地産地消ネットワーク交流会の開催
(食と農のフォーラム)



企業等との連携による地産地消の推進
(ニューマン横浜における地産地消フェアの開催)



はま菜ちゃん料理コンクール
入選作品レシピー集

市担当者からのコメント(環境創造局農業振興課)

- 今年度は、株式会社ルミネ及び横浜銀行と連携した、ニューマン横浜における「横浜地産地消フェア」の開催や、JA横浜と連携した市庁舎での横浜野菜の直売など、新たな地産地消の取組を企業等との連携により実現することができました。これらの取組を通じて、より多くの方に横浜で営まれている農の魅力を感じていただくことができました。引き続き、様々な主体と連携しながら、市民の皆様が身近に農を感じられる取組を進めていきたいと思っております。
- はま菜ちゃん料理コンクールにおいて電子申請を活用した応募方法への変更したり、地産地消ビジネス創出支援事業の講座をオンラインで実施するなど、新型コロナウイルス感染症対策として、柔軟な対応を取り入れることにより、コロナ禍の中でも円滑な事業実施を行うことができました。

◆施策2についての評価・提案

- 直売所の整備・拡充支援については、目標を下回りましたが、自動販売機の設置など、市民が安心して野菜を購入できる機会の創出に繋がっていることを評価します。
- 地産地消の広報については、Instagramを活用した情報発信や、自宅で料理を楽しんでもらえるレシピ動画を作成するなど、新しい生活様式に沿った取組にも積極的に取り組んでいることを評価します。
- 市内産農畜産物を販売するマルシェの企画開催等多様な主体との連携により、「横浜農場」を活用した統一的なPRがさらに推進されることを期待します。
- はまふうどコンシェルジュは400人以上となり、自主的な活動も活発であると聞きます。多様な市民ニーズに応えるために、その活動の機会を増やし強化していくことを期待します。
- 市民・企業等と連携した地産地消の取組数を着実に増やしたことで、活力ある都市農業の展開や市民が身近に農を感じる場づくりが進んでいます。地産地消に関わる人材の育成や企業等との連携を進める取組のほか、市内産農畜産物を扱う飲食店の利用促進に向けた取組等、訪れる多くの方々が市内産農畜産物を手にすることができる機会が増えることを期待します。

「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント

〇〇。

内海 宏

